

会 議 記 録

記録者：鈴木達也

会議名称	まちづくり懇談会（坂下地区）
開催日時	令和４年９月２０日（木）１９：００～２０：３０
開催場所	中央公民館 大研修室
出席者	参加者：７２名 町：町長、副町長、佐藤政策財務課長、遠藤庁舎整備課長、佐野庁舎整備班長、鈴木

<会議内容>

報告・協議

・町長あいさつ

・説明・・・新庁舎建設について、財政状況について

・懇談・・・将来のまちづくりについて（新庁舎建設場所等）、町政全般について（町民）

新庁舎の建設候補地とされている４カ所を見て回ってきた。自分の中では南幹線沿い県有地が良いと思った。役場は町のシンボルでもあり、みんなから見えているところであり駐車場も広く確保できて、アクセスの良いところというのがある。病院は人が亡くなっているところでもあり、跡地に建物を建てるというのはどうかなと思うところがある。坂下高校は広いけど、あそこまでいくアクセスが良くない。県有地は防災マップ上で水害の心配もない。

アンケートが１５歳以上で１，０００人抽出というのはどうやって決まったのか。無作為抽出というのはちゃんと考えていない人にもあたる可能性がある。これから何十年も使用していく庁舎に対して、そういう方々の意見で決めるのはどうなのかなと思う。アンケートをするなら世帯でお願いしたい。そうすれば家族の中で考えてもらえる。

もし可能であれば、選挙のような住民投票だと良い。非常に大きな案件なので、そのくらい慎重でも良いのでは。

江戸鮎の解体は進んでいるが、これについてもお金を使っているが、全部なしにして他のところにいくのはどうなのかなと思う。

私は正直あまり今の現有地については賛成していない。これから高齢化が進んでいくと、商店街についても空き家等もいっぱいできると考えられる。空き家ばかりではみすばらしいし、空き家を壊して更地にしても今度は草が生い茂ることにもなる。そういう場所に役場が建つようなことは良くない。町民が足を運ぶ度に町の衰退を見せつけていくようで、明るい未来が見えてこ

ない。

次にまちづくりについてだが、私は町のボランティアガイドをしているが、冷やしラーメン等では県外からのお客様がいるのをよく見たりする。町の中でお金いくら回してもしょうがない。よそからお金が入ってくるように、観光に力を入れて欲しい。七日町の通りのような感じになればと思う。

(事務局)

アンケートについて、調査の有効性についても調べてサンプリングの数を推計して1,000人とした。今現在年代別、地区別で抽出しようと考えている。

まちなかについてだが、総論としては同感です。商店街の再生は実施していく考えです。まさに七日町のように周遊できるよう、寺社仏閣やお店屋さんを回ってもらうような仕組みづくりをしたい。

(町民)

私は議会は何をやっているのかという思いがある。前回建設場所を決めた際にも検討委員会で様々なことを検討したと思う。その結果今の現有地が選定され、議会は承認した。しかし、またひっくり返って、場所選びに入っている。当時は13対2で可決され、今回は8対5で可決された。当時賛成した議員が今回の請願書に絡む議決で賛成したのであれば説明責任があるのではないか。なぜ今回は見直そうとなったのか、議員として説明してもらいたい。

これから新庁舎の議論を深めていくにしても、まずは議員の方々の説明を聞かないことには筋が通らないと思う。

(渡部議員)

申し上げます。前回建設場所に賛成した際の根拠としては、町の財政状況が非常に大きくあった。検討委員会の際に示した前提条件があり、それは国からの支援を受けるために平成32年度までに着工しなければならないという条件です。着工まではわずか2年程度しかなく、検討の時間は非常に短い、現有地であれば2年以内に着工して国からの支援を得られるという条件があった。そうであればということで当時賛成した。しかし、延期したことによりもうその支援を受けることはできなくなった。自らのお金で建設しなければならないという状況へと変わった。

当時は時間のない中で、まちづくりのシンボルともなり得る新庁舎をそんなタイトなスケジュールで決めていった良いのかという主張・議論はさせてもらっていた。しかし、結果的に財政上の理由により延期という形となり国からの支援は受けられなくなった。そして4年が経過し再開し、今度は時間の制約というものはない中で町民と協議を重ねながら、より良いものを作っていくという道筋ができた。大きな要点としては以上となります。

(小畑議員)

4年前は賛成し、今回について反対したわけではありません。改めて4年というブランクがあった中で、もう一度皆さんの意見を聴こうじゃないかと考えた。現有地そのものに反対であると

いう姿勢でいる訳ではない。

前齋藤町長は、新庁舎を建設するという公約を掲げて当選された。しかし私としては、坂下町の財政では不可能ではないか、将来に大きな借金を残すことになるのではないかと繰り返し発言してきた。しかし、財政は大丈夫ですという話であり検討委員での協議の結果、現有地が良いだろうということで賛成した。結果的には9月に財政上の理由により延期せざるを得ないということとなった。今まで大丈夫だと言っていた話はなんだったのか。

その後財政健全化期間に入り、幾分改善はしてきたが、潤沢な財政規模という訳ではないという事は変わっていない。現庁舎は耐震性もなく、職員の方々をもっと安全な場所で職務にあたってもらいたいということに異論はない。小学校の統合が目に見えているのであれば、そちらを利用するという選択肢だってあるのではないか。それでも町が財政上、新築での建設に問題はないとするのであれば、しっかりと協議を深めて進めるべき。そういった考えのもと今回賛成した。

(事務局)

今日の懇談会は、議員と町民の方のやりとりのために設けたものではないため、別な機会を設けたうえで議論を深めてもらいたい。

(町民)

議会での決定が180度変わってしまったために、まずはなぜそのような結果になったのかということを詳しく知らないと思えば進めないと思った次第であります。

(町民)

議員と議論する場でないという話の中申し訳ないが、よく議員の皆さんは4年経過したから社会情勢が変わったからと話すが、令和4年第一回定例会においては、旧江戸鰯の解体等においても予算は可決されている。そのことについての説明責任は果たされていない。町としても旧江戸鰯を取得することで庁舎建設に動いていたのではないかなと思うが、どういったことなのか。

(事務局)

平成30年の議決で現建設予定地に決まったということを重んじて、旧江戸鰯の競売での取得に動いた。その後今年6月定例会において再度協議すべきという意見書が提出され議決された。どちらの議決についても尊重すべきことである。今現在の状況として、現予定地がひっくり返ったわけでもないため、解体工事についても粛々と進めていく。

(町民)

検討委員会に参加しており、請願書を出した本人から話を聞いた。その中では現予定地に反対するというものではなかった。しかし、議会を通り町にいったら現建設予定地を含め再考するという流れとなっていた。それを見ていると、やはり町側は別な場所にしたいのではないかなという風に見えてきてしまうのだが、どうなのか。

(事務局)

別な場所にしたいということで提案している訳ではない。皆さんと協議を深めて判断していきたいと考えている。意見書としては、場所も含めて再度意見を聴きなさいという意見書であった。そこに基づいて進めている。

(町民)

最後に、こういう小さい町は町長や議員の方々が大きな権限を持っている。是非ともその権限を正しく使ってもらいたい。

(町民)

場所のことについては正直難しくてよくわからないが、現状の庁舎は耐震上危険であると言われているのであれば、できるだけ速やかに新庁舎の建設は実施しなければならないのではないかな。でなければ何かあったときに対応できるものがないのではしょうがない。とにかく速やかに進めて万全な体制で防災にあたってもらいたい。

(町民)

当初の建設予定地ですと、東分庁舎も解体となっていた。その中には地域づくりの核である坂下コミセンが入っている。坂下地域づくり協議会に関わっている身としては、また引っ越しさせられるのかというのが本音である。そうであれば役場内の機構改革に合わせて、地域づくりも包含した形で新庁舎建設を進めてもらいたい。

商工会や社会福祉協議会等、複合施設として入るのかも町民としては興味があるところである。

(町民)

新庁舎建設のスケジュールはどうなっていくのか。いつまでに建設したいのか。

(事務局)

本年3月の議会全員協議会において提示させてもらったスケジュールでは、令和6年度中に建設という予定であったが、今回のように町民の意見を幅広く聴く場を設けていくこととした関係もあり、その予定よりは遅れていくこととなります。

最終的には令和6年度中には着工したいと考えている。

(町民)

今、こうやって懇談会をやっているということは、計画上はストップしている状態なのか。懇談会を経て、また議会にかけて決定していくという形となるのか。

(事務局)

本年中には決定するように考えている。全体的な基本構想については並行して進めている。

(町民)

二転三転している状況であり、町民としては疲弊している。早急に決めてほしい。

(町民)

先ほど渡部議員は、着工までのスケジュールがタイト過ぎたという話があったが。令和6年度までに着工するというのはタイト過ぎないのか。

(事務局)

基本的な方針というものを今現在お示ししている状況であり、本年度中に基本構想を決めていけば、タイト過ぎるスケジュールではないと考えている。

(町民)

基本構想はもうほとんどできているということなのか。

(事務局)

今現在煮詰めている状況である。

建設計画を休止している間に、検討が進んでいなかったのは事実である。

(町民)

町長は商店街の再生について考えているということだが、庁舎ができるできないに関わらず、こういった形に持っていきたいと考えているのか。

(事務局)

基本的には商店街の方々が先頭に立って実施していかなければならないことだと考えているが、喜多方市であれば昭和レトロのような、街並みに物語を持たせるような考えでいる。街中商店街は県道であるため、県とも度々この協議はさせていただいている。電柱もまちづくりの上で、景観上もよくないし、カラスの糞害もある、防災上も倒れた場合に通行不可能になってしまうという状況でもあり、電柱の地中化するような要望を出したところ、県の幹部の方も「商店街の再生」ということで、こういったまちづくりをしていくのかを打ち出してほしい、そうでなければ県としての支援はできないと言われた。

街並みに物語をもたせ、観光客も周遊できるようなまちづくりをしていきたいと考えている。

(町民)

町と商工会はどの程度話合いをしているのか。

(事務局)

まだまだ構想の段階で、話し合いはしていない。

(町民)

であれば、町長のその考えはいつ表に出していくつもりなのか。

(事務局)

今回新庁舎のことでこうしてまちづくり懇談会を実施して協議しているところではあり、一つ一つ問題を解決していき進めていきたい。ただ、何年も先の話ではない。

(町民)

これから商工会や商店街と話し合いをしていく予定はあるのか。

(事務局)

そういう考えでいる。

(町民)

今までの経緯についても聞きたいことは山ほどあるが、議会で決議されたことがひっくり返ったことで、町民の議会への信頼というものは大きく失墜していると考える。言い換えれば、もう議員には任せておけないという声でも聴かれる。そうであれば、住民投票により決めるという方法でいいのでないか。そうすればアンケートだのなんだから時間をかける必要もない。是非検討してもらいたい。

(町民)

先日二人の議員からレポートという形で配布された。一般の町民は3月までは江戸鮎跡地が庁舎の場所と思っていた。6月くらいから違う意見がでてきた。4月に新しく庁舎整備課ができて進んでいくのだなと思っていたところでのことだった。これから長としてどのように進めていくのか。正直不信に思う。

(事務局)

議会からの考え方については、先ほど議員の方からのお話のとおりであるが。町長としては、どちらの議決も重く受け止めて進めていく。

(町民)

今まで現建設予定地に対して投資してきたお金についてはどうなるのか。3か月の間になんで変わったのかと思う。

また、今回の懇談会に関する情報かわら版でのお知らせだが、内容がひとつも書いていない。それで集まってくださいと言われても、何を話せばいいんだと思う。

職員の方々がよく駐車場まで戻りお昼を食べている。それだけ役場の中にはそういった空間がないのでしょう。そういうことを町長は良く見て新庁舎を早く建ててもらいたい。職員の方々が

努力して財政を健全化してきたのだから、早く庁舎を建てるべき。正直一步進んだかと思ったら、三步戻るような状況である、何をやっているのかという思いだ。

(町民)

先ほど請願を提出した人に対しての話があった。名前は言わないが、請願を提出した人へ対してどうだとか、誰々に指示されてこういった請願出したんだとか、そういう噂を流すような人もいる。そういうことをされると、町民の権利である請願を提出すること自体ができなくなってしまふ。その辺りは注意して発言してもらいたい。これは要望です。

(町民)

町政全般で、カラスの駆除をお願いしたい。

(事務局)

実施はしているのだが、追っかけっこばかりしているのが現状である。なんとか対策を考えていきたい。

(町民)

下水道工事についてだが、いったいいつまでかかるのか。

(事務局)

J Rまでを令和7年度までを目途に進めるという計画だったが、これから役場前通りを始める状況である。なんとか10年プランで進めていきたい。

(町民)

水道料金が上がったのは下水道がきたからなのか。

(事務局)

少し前に水道料金の価格改定があったためであり、下水道が関係することではない。